

昭和三十六年豊橋市に適地（十
万坪）を購入先づ鳥羽工場より大
型製品の生産を移す事になった。

丁度この時期に（昭和二十九
年）伊勢湾フェリーが創立され鳥
羽、伊良湖間の運行が開始された。
次いで豊橋、伊良湖、鳥羽間が国
道に昇格し、鳥羽、豊橋間が一層
便利になり、豊橋工場建設に大い
なる援助を受ける事になった。

其後近鉄が特急を賢島迄延長す
る計画を作った。以前に合併した
従来の志摩電鉄の線路では特急運
転に不都合の為、神鋼鳥羽工場敷
地の一部の売却を要望して来た。
鳥羽工場としては要望の土地は工
場として重要な部分で、到底要
望に応じられない土地であった。
再三話合いの末、止むを得ず一
時は鳥羽工場の全土地建物共売却

「上を向いて歩こう」

私は現在東京在住だが、暮れか
らお正月は毎年芦屋のアパートで
十日ばかり過ごしている。

ている。

映画館の入場料などもシニアと
して半額の待遇が受けられる。都
営バス、地下鉄は東京では所得制
限の為有料になっているが、一万
七千五百円で一カ年間利用出来る
のも誠に有難いものである。
永い間入会している交詢社、大
阪倶楽部、茨木カントリー倶楽部
は総て特待社員として会費を免除
されているのみならず、茨木では
毎年九月敬老の日にゴルフに招待
される上、一昨年から八十五歳を
越えたので、毎回特賞が頂ける事
になっている。スコアにこだわら
ず尚何とか十八ホールを廻れるの

鈴木商店

―家庭の中からかいま見て―



この度、兄昇に代わって準会員
として本会に入れて頂くに当たり、

し、全工場を移転する案に快った
が、市当局や従業員事情も考慮
して、中型は豊橋工場へ移すが、
小型は鳥羽で別地に新工場を造成
して移し、従来の工場は土地建物
共全面的に売却する事に決定した。
新鳥羽工場としては鳥羽駅と鳥
羽商船高等専門学校間の国道山側
約二万坪を求めた。

これにより旧鳥羽電機工場跡は
近鉄複線路と四車線の国道と伊勢
湾フェリー会社と其のパーキング
広場と鳥羽水族館の延長新館で占
められる事になった。
旧鳥羽造船所跡が六〇余年の間
に二転三転と変貌した現在、昔を
知る関係者の一人として一抹の淋
しさを感じている。

（平成四年五月）

西村 鏡次郎

元日は朝早く家を出て、九時頃
京都の私の生家へ新年の挨拶に行
く事になっている。京都で呉服商を

は誠に恵まれたものと思う。

若い時から音楽演奏の趣味を
培っておいたお陰で、時折若い
人達と弦楽合奏を楽しむ事が出来、
「毎日が日曜」の身分になっても
楽しむ術は幾らでもあり、子供の
頃からたしなんだ囲碁は、三段の
免状を頂いているが、まだ之に時
間を潰すのは惜しい気がする。
私が会長を引き受けている日本
アマチュア演奏家協会の会員が、
十数年を経ても千人以上に増えな
いのが一番気にかかる。
音楽を通して交遊の輪が広がる
事を偏に念願している今日此の頃
である。（そごう商事(株)顧問）

木村 毅

一言ご挨拶申し上げます。
父木村喜之助（明十八、明四
十）は大正八年の頃入社、外国電
信部主任、のち課長に登用された
模様ですが、かねてより英書に親
しみ、英国人宣教師について英会

営んでいる私の生家は、父の代か
ら兄の代を経て今は甥の代になっ
ている。毎年本家に集まる風習は
私の子供時代から尚続いている。
その形式は非常に簡素になり、集
まる人も今では十数人に過ぎない
し、集まる時間も九時から十時過
ぎまでの一時間半ばかりの間に終
わるが、年に一度此處で顔を合わ
せるのは楽しいものである。

次男の私が分家をして京都郊外
の日向市に新居を構えた年の昭和
九年から今日まで五十八年、この
間勤務地の関係から参加できな
かった十回ばかりを除いて皆勤し
ている。
私が東大でゼミの御指導を頂い
た脇村義太郎先生は、東大定年御
退任後の三十余年前から、毎年お
正月は京都ホテルで御家族と共に
お過ごしになって居り、元日は昼
前から神詣でをなさっているが、
昭和五十七年からお誘いを受けて
神詣でのお供をしている。今年で
早十回目を迎えるが、之もお正月
の行事になっている。
「辰巳会」が昭和三十五年に発
足し、鈴木商店の作った帝人に勤

話を学び、若干の努力をしていた
父にとって、このことは願っても
ない有難い出来事で、毎日の仕事
が本当に楽しいものであったよう
です。

大正十年には百数十円の家賃を
払って西須磨のや、高台、千守町
二丁目の身分不相応な屋敷に移り
住んだのも、このような心境の表
れでありましたが、他面では「子
孫のために美田を買わず」という
外遊を許され、大正十四年末から
十五年初めの頃神戸を発ち、米國
経由でロンドンに到着、ロンドン
支店の皆様にたいへんお世話にな
りながら、職務上関係事項の調査
や取引先訪問もしたらしいのです
が、主として年来崇拜してきた思
想家たち、就中、ジョン・ラスキ
ンやトマス・カーライルなどの研
究に打ち込み、全集や単行本など
を片端から買い集め、また彼らの
ゆかりの土地を訪問して過ごした
ようです。

大正元年以来ロンドンを中心に
鈴木商店の事業の飛躍的發展に大
きな貢献をされた支店長高畑誠一
様は、父が到着した時はまだおら

務した関係で、目下その東京支部
の幹事の一人となっているが、此
の会員百五十八名の平均年齢が八
十七才で、私は未だ此の年齢に達
せず若いつもりで此の会の催しに
顔を出す事が出来る。

一昨年秋京都一中同窓会京阪支
部の総会に出席した處、私より十
年先輩が満九十五才で元氣な姿を
見せられたのには大いに氣を強く
した。

一昨年アメリカのポートランド
で催されたロータリー大会に出た
時、高知在住のバスターガバナー満
九十歳でただ一人でグループに入
り旅行をして居られた。首からカ
メラをさげ、右手にビデオ撮影機
を持って居られた姿を見て驚いた。
『PHP』の昨年二月号に「百
一年見届けた人間ドラマ」と題し
て津市の弁護士樋口恒通氏の記事
が出ていたが、大いにあやかりた
いと思う。

年老いて健康で暮らせる程幸福
な事はないと思う。

JRのジパングクラブに入会し
て早数年経ったが、年二十回の三
割引の切符は毎年殆ど総て利用し
れたようですが、既に台湾銀行か
らの要請で、危急存亡の事態に
陥った本店を建て直すために帰国
される直前であったように思われ
ます。

このような重大な局面にあって
父が知ってか知らずしてか、一年
間、生涯またとない最高の好日月
を楽しんでいたことは、誠に申し
訳ない次第でありました。

やがて昭和二年春には破局が訪
れ、父は急いで神戸に帰り着きま
したが、鈴木商店のために多くの
方々と苦勞を共にすることも出来
ず、早速自らの就職に血眼になっ
て走り回るばかりありませんでした。

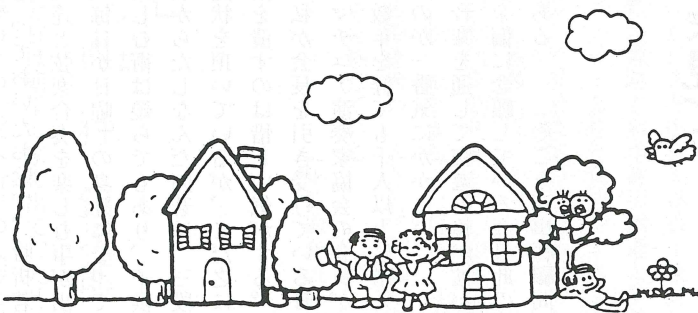
幸いにデンマークの大北電信株
式会社に採用され、同社が日本政
府の政策により日本での営業が不
可能になる昭和十六年まで営業
チーフとして在職、その間経済的
にはかなり恵まれていたようです
が、時局の進展とともに、外貨節
約を至上命令とする政府機関と外
国電信の顧客である多くの貿易商
社の利害とのほごまにあつて、そ
の営業活動は鈴木商店での仕事と
は雲でいの差で、苦澁を極めたも

のようでした。

大北電信退職のあと、戦時中は貿易統制会関係に、戦後はベルギー人経営の貿易商社に勤め、昭和三十五年頃まで働いたあと、しばしば鈴木時代を回想しつつ、商社の私的年金制度で余年を送りました。

鈴木商店については、例の焼討ち事件や倒産などについて、多くの経済門書は、悪意に充ちた記述でもなく、しかしまた非常に好意的な見方でもなく、あいまいな評価に終わっている例が多いようですが、城山三郎氏や桂芳男教授などのご努力により、かなり真相が解明されたことは、誠に慶ばしいことであり、これらの方々のご努力に感謝するとともに、直接鈴木商店に関係された方々にも現在尚かなり多数ご健在でいられることは何よりで、既に『たつみ』誌にもかなり執筆されているようですが、高畑様が昭和四十七年十月十五日から十一月九日までの間、二十六回にわたり、日経新聞の「私の履歴書」に書かれた内容を更に補完する意味で、今後とも当時を

回顧して健康を揮われることを、期待してやみません。
そしてそのためにも、この辰巳会のみならずご発展を心からお祈り申し上げます。



辰巳会より

本部新年例会報告

平成四年一月十四日(火)

本年も中国料理の東明閣へ、寒さにめげず三十七名の出席者があった。

正午、藤田幹事の懐かしい第一声が、マイクを通して場内に響いた。即ち司会である。

開会の辞は五十嵐幹事長が若々しくされ、新年の挨拶を鈴木会長が元氣よくなされた。次いで会務報告は松下幹事が本年の米寿、喜寿を迎えられる方を紹介、又昨年秋季例会以降の物故者を報告し、一分間の黙禱を捧げ終了した。

直ちに宴に入り、九十四才の山田作之助翁の目出度い音頭により、乾杯祝賀会は始まった。その間、故高畑誠一会長の筆になる真紅の

大盃になみなみと注がれた新酒を廻し呑みされた。

ご馳走もあり加えるに久しい振りの歓談が何よりの喜びであり、出席出来る健康とあわせて、有難い平和日本に感謝すべきか！

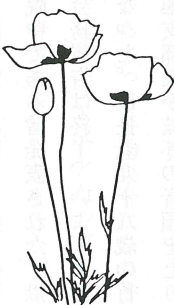
米寿を迎えられ矍鑠として活躍の室谷山水氏のスピーチは誠に有意義なものであった努力あり、且運を掴む事が必要だ。

談つきたるところなし、充足感と言う状態であったが、健康、事故等々を考慮して、閉会すべく、高畑幹事の『辰巳会万歳』を最後に解散となり、それぞれ次回の再会を約し、東明閣をあとに街に消えて行った。

とき二時三十分過ぎであった。

以上

松下 記



平成5年全国大会の御案内

—金子直吉翁50年祭祝いについて—

来年(平成5年)は、直吉翁が亡くなられて50年にあたり辰巳会といたしましては、全国大会において、金子翁の80年祭祝いを左記の通り取り行なう企画準備中でございますので、皆様多数のご参加をお待ち申し上げます。

本部幹事一同

記

とき 平成5年5月20日(木)
ところ 神戸「長田神社」
神戸市長田区长田町3丁目1-1

平成三年 新年例会出席者名簿
平成四年一月十四日(火) 於・東明閣

阿部	五十嵐	井上	奥野	小野	金子	東尾	北尾	山城	窪田	小田	鈴木	須藤	高畑	千頭
文子	文子	好正	さき	晶子	貞子	賢子	素子	富美子	喜夫	圭夫	俊夫	孝子	欽吾	喜代子
孫治	孫治	集	正	西	福	堀	松	久	宏	健	有	富美子	一	一
原	東	坂	高	内	沢	内	田	久	宏	健	有	富美子	一	一
原	ト	東	みどり	富美子	有	一	富美子	一	富美子	一	富美子	一	一	一
計三十六名	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上

全国大会報告

平成四年五月二十日(水)

於・京都プライトンホテル

今大会は恒例となっていた開催場所を京都に決め、余り欲張ったコースも設定せず自由で楽な会合をと相談し実行の運びとなった。

会場のホテルは都心にあつては一寸辺鄙な場所であったが一九八八年オープンで鈴木会長も時々利用されており、立派な落ち着いたものであった。

前夜から宿泊された方もあり、正午から開会となった。

今回も東京・名古屋・四国・九州と各方面から五十五名の出席があった。

残念ながら皆勤であった北海道函館の加地氏がご欠席で来年は是非にと願っています。藤田幹事の司会により、五十嵐幹事長が元氣よく開会を宣し、鈴木会長が一年ぶりの挨拶の辞と、ともに健康で又来年の大会を約された万雷の拍手のうちに終了。

次に松下幹事の会務報告となつた。

昨秋の叙勲で日商岩井(株)御出身の近藤鳩三氏が勲三等瑞宝章受賞の旨発表、拍手をもってお祝をした。